

多くの人はご存知でしょうが、2015年度入試からセンター試験の理科・数学は方式が大きく変わります。特に理科については複雑な選択になります。3年生はすでに方向性決定済みと思いますが、1・2年生はこれからの学習に備えて理解を深めておきましょう。ただし、まだ入試形態の確定していない大学も多いので、注意が必要です。ここでは理科の新方式の概要についてだけ紹介したいと思います。

2015年センター試験の理科は4パターンがあります。

「基礎」科目：物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎

「発展」科目：物理・化学・生物・地学（注：「発展」は正式な呼称ではありません）

の8科目のうちから

A：基礎2科目 B：発展1科目 C：基礎2科目＋発展1科目 D：発展2科目

のいずれかの受験パターンを選択して、出願の際に申告することになります。

ただし、大学によって選択できるパターンが予め指定されているケースが大部分となりますので、よく要項を確認する必要があります。

現時点で発表されている大学別の指定パターン状況はおおよ下の通りです。

①が最も多いパターンで、それに続いて多いのが②のパターンです。

（カッコ内の%数字は大学全体の中での割合で、旺文社のデータを引用しました。）

なお、参考までに国公立の個別入試の科目は「基礎＋発展」となるのが大部分です。

	文系学部			理系学部		
	国立	公立	私立	国立	公立	私立
センター	① 基礎2 または 発展1 (約55%)	① 基礎2 または 発展1 (約85%)	① 基礎2 または 発展1	① 発展2 (約85%)	① 発展2 (約60%)	① 発展1
	② 基礎2 (約20%)	② 指定なし (約10%)		② 発展2 または 基礎2 ＋ 発展1 (約10%)	② 発展1 (約15%)	② 基礎2 または 発展1
個別	基礎＋ 発展で 1～2 科目	基礎＋ 発展で 1～2 科目		基礎＋ 発展で 1～2 科目	基礎＋ 発展で 1～2 科目	



中間試験が終わりました。出来栄はどうだったでしょうか？

1年生の皆さんには4月のガイダンスでもお話ししましたが、なにしろ高校で初めての定期考査でしたから、中学生の時にはとったことのないような点数や、経験のない順位を目の当たりにして驚いている人もいることと思います。その点を気にするよりも、今後の学習に生かしていくことの方がはるかに重要です。

1年生に限ったことではないのですが、テストは「前もって準備する」ことと同じくらいに、「後から振り返る」ことが大切です。テストを受ける意義はいろいろありますが、最も重要なのは「自分の弱点を見つけ出す」ことでしょう。それをしなかったら弱点は弱点のままいつまでも残ってしまいます。先生の解説を聞いたり正解を読んだりするだけで満足せず、ぜひ問題を再度解き直すという作業をしてください。テストが返却されても点数だけ見てさっさとしまいこんでしまうなどというのは、もってのほかですよ！

「振り返る」内容も、単に問題の解き方だけではありません。

- ・ 日常の予習復習は十分だったか
- ・ テスト前の学習スケジュールは適切だったか（2週間前から計画的にできたか）
- ・ テスト対策の内容は適切だったか
- ・ 次の定期テストまでに取り組んでおくべきことは何か

さらにお勧めしたいことは

- ・ 周囲で好成績をあげた友人はどのような対策をしたのか聞いてみる
 - ・ 特に気になった問題の正解と解法を専用の「振り返りノート」に書いておくこと
- などです。期末考査まで40日。テストを活かして進歩しましょう！



本校でも図書室に置かれている「高校生新聞」という新聞があります。少し古くなりますが、2014年1・2月号にこんな記事がありました。

<以下引用>

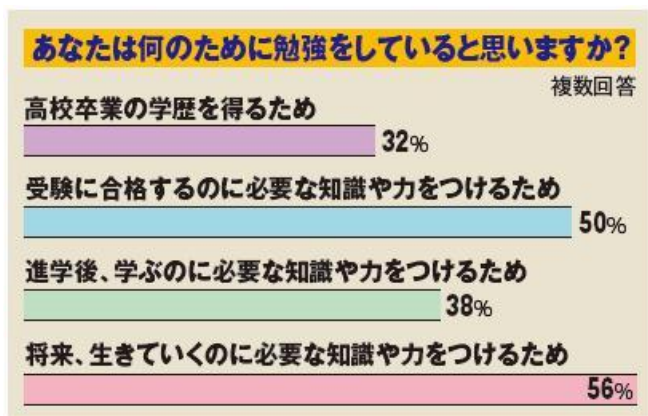
高校生新聞の全国高校生へのアンケート「高校生白書」で、「何のために勉強しているのか」を尋ねてみた。

勉強する理由を4項目から複数回答可で選んでもらったところ、「将来、生きていくのに必要な知識や力をつける」(56%)が最も多く、「受験に合格するのに必要な知識や力をつける」(50%)が続いた。「進学後、学ぶのに必要な知識や力をつける」は38%、「高校卒業の学歴を得る」32%だった。

進路希望別では、四年制大学志望者は「受験～」が63%と多いが、「進学後～」は42%にとどまる。「将来～」は、平均より低い52%だった。一方、就職希望者は、「将来～」が63%だった。

<引用終わり>

全国の高校生はなかなかしっかりと考えているようですね。皆さんは自分の考えと比較してどうでしょうか？「将来、生きていくのに必要な知識や力をつける」ためには、もちろん勉強だけではだめですね。毎日の学校生活の中からも家庭生活の中からも、できる限り多くのことを糧として吸収して、大きく成長してください。



※高校生白書：2013年7月に全国55校でアンケート調査を実施し、5768人の回答を集計。

高校生新聞社

以上